

第80回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日時	令和元年7月4日(木) 14時00分～16時00分
開催場所	市庁舎5階 関係機関執務室
出席委員	工藤委員長、蟻川委員、河合委員、大久保委員
欠席委員	有賀委員
法人	二見理事長、下澤事務局長ほか
事務局	高橋大学担当理事、森田大学調整課長、井上大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開(傍聴者 1名)
議題	1 第79回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録(案)について 2 平成30年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告について 3 公立大学法人横浜市立大学平成30年度決算及び財務諸表等について 4 平成30年度決算における法人利益処分について 5 データサイエンス研究科新設に伴う中期目標(第2教育研究組織)の変更について 6 附属2病院について
決定事項	
議事	<p> 主要な発言は、以下のとおり。 (○：委員発言、△：法人・事務局発言) </p> <p> ※議題1について<資料1> 特に意見なし </p> <p> ※議題2について<資料2> </p> <p> <資料2> ○トータルで「S」評価の項目がないが、研究面は遠慮して「A」にしているのか。 △予定通りは「A」。非常によくやった、予定を上回って実績を上げたのは「S」ということで学内の取りまとめをした。 </p> <p> ○内部的に厳しく律するという事は大事だが、他方でこれが評価として市民に公表されることを思うとある程度評価するところは、褒めて評価する必要があるのではないかと。 </p> <p> ○コンプライアンス及びガバナンス機能が「B」というのが非常に気になる。再発防止のための職員研修の徹底は必要だが、起きてしまった時の適切な処分を周知徹底するということが必要なことだと思う。具体的に、アカデミックハラスメントや通勤手当の不正受給といった事案に対しては、どういった処分があったのか。 </p> <p> △アカデミックハラスメントについては、申立人と被申立人双方から話を聞き、専門の調査委員会を立ち上げ、事実確認をした。 昨年度はハラスメント認定となったが、教員に対してはどこに問題があったか、繰り返し面談を行い、定期的にケアをしながら、再発防止に向けて取り組んでいる。併せて、全教員の問題、ファカルティ・ディベロプメントの研修を行い、意識の啓発に努めることができた。 学術論文取り下げの問題については、若い研究者が問題を起こしたことに対し、教員側の気配りの弱さについて反省している。それを踏まえ、今年度、特に院生指導で若い教員が、どんな点でプレッシャーを感じているかについて理解するための研修を開き、全学で共有していくという計画を立てている。 </p> <p> △処分としては、懲戒処分とした。 研修について補足すると、ハラスメントに関しては、全教職員受講必須とし、アカデミッ </p>

クハラスメント事案の具体的な事例に沿って解説し、問題点について理解を促すよう e ラーニングによる研修を行っている。ハラスメントの要因として、怒りに任せてというところがあるので、アンガーマネジメントを e ラーニングに盛り込んだ。

効果が上がるような内容にするべく努力をしているところだが、結果としてこういう事案が発生してしまったことについては、お詫び申し上げます。

○総合ランキング 30 位というのは、非常に喜ばしい。着実な努力が実を結んできているのではないかと。今回の学部再編についても学内のコンセンサスを得て、本当によくやった。志願者数も上がり、データサイエンスの志願者も良好な数を獲得している。総合的に大変努力をしたと感じている。

○ランキングが上がったのは嬉しいことだが、そもそも教育面の指標などを国際的に同一の土俵でどうするのかというのはなかなか難しい。ある程度励みとしてこういうことを頑張っているよということ、学内で鼓舞するような使い方をすることも大事なのかなと思う。

なお、ランキングを上げるために、外国人教員数、英語の研究論文数等でテクニカルに評価点をアップさせる方法もないわけではないが、それで本当に大学のステータスがアップするとは限らない。大事なことは、横浜市大に入学して良かったと学生が満足し、社会からあそこの卒業生は一味違うと評価をされること。いずれにしてもランキングが上がったというのは喜ばしい。

△卒業生に対して、卒業時に 4 年間の学びについての振り返りのアンケートを実施し、昨年度の卒業生の 84% が満足・やや満足と回答している。また、昨年度より卒業 3 年後にもアンケートを実施している。母数が少なくまだ信頼できるデータにはなっていないが、卒業後、社会で仕事をする中で在学中の学びを実感することが多いという結果が出ている。

○入学時にあまり満足度がない学生もいるが、在学中に満足度が上がり、卒業時には入学時に比べてかなり満足度が上がる。受験生獲得に卒業生の声をアピールすることが大切である。オープンキャンパス等を通じて伝える必要があるのではないかと。

○市大は、コンパクトでシャープという良い印象を持たれている。私自身、経営者側で出ているため、ガバナンスが気になるが、現場の教員、病院の医師、職員は相当一生懸命やっている。だからこそ着実に成果が上がっていることは高く評価すべきだと思う。幹部が、ガバナンスやコンプライアンスに責任を持ち継続的にやるしかない。ガバナンスやコンプライアンスは一種の風土のようなものであるから、着実にやってもらいたい。

※議題 3、4 について<資料 3、4>

○資料 4 で運営交付金の予算額が、決算で 1 億 2 千万減っている。積算で仕方ない部分なのか。

△横浜市から転籍した職員の退職手当には横浜市負担分があり、在籍期間に応じて運営交付金が交付されている。運営交付金は予定通り全額受け入れているが、費用が落ちた分については収益に上がらない形で次年度以降に持ち越しており、その費用に伴ったずれが予算額との大きな乖離の原因である。

○資料 4 の人件費比率について、教育機関であり医療機関でもあるため、人件費は少なければ良いというものでもない。

△人件費については、人員増減の影響もあるが、人の入れ替わりによりずれが生じることがある。

○資料 10 にある当期総利益について、研究の充実に使いたいということは分かるが、市に返還したりするのか。

△利益については、目的積立金として計上し、横浜市長の承認を得て剰余金の使途に充てることができる。現在のところ横浜市へ返納する予定はない。

○資料3のセグメント情報で、附属病院の経常損益は若干プラス、センター病院の方は経常損益が若干損失となっているが、収益構造で診療科と収益面の特徴というのはあるのか。

△附属病院は、特定機能病院ということで高度先進的な研究を中心に難病、希少がん等に力を入れている。センター病院は、特定機能病院ではないが、大学の附属病院であり、第3次救急、横浜市の高度救命救急センターとして、地域医療の最後の砦となり救急患者を受け入れている。またセンター病院は、総合周産期母子医療センターであるというのも大きな特色である。

△両病院に共通して収支の改善に向けて行っているのは、新規入院患者数を増やすことと、在院日数を短くすること、手術件数を増やすことである。そのほか、重症病床（ICU、ACU、HCU等）の病床利用率を上げることにより、収益構造の改善に取り組んでいる。

○資料3当期総利益について、30年度が766百万とあるが、目的積立金取崩が、29年度328、30年度が322とある。目的積立金が資本剰余金の中にもともとあるが、積立金を10億増やし、3億減らすというのは、どういう内容か。

△目的積立金については、退職金の数理計算上の差異に充てているほか、ICT関係経費として使用した。

○今回、環境対策引当金が初めて出ているが、何か指摘があったのか。

△監査法人からPCBの引当金について、30年度計上するべきだという指摘があり、センター病院と大学の方で進めた。

○処分費用の見積もり額をそのまま計上したのか。

△そうである。30年度一括で計上した。

○今後も発生するものか。

△引当金は30年度で全て積み立てているので、来年度以降はない。

○資料10にある7億6千万余は、すべてが積立金なのか。

△今回7億6千6百万円を目的積立金として、積み立てる。

○昨年は資料3にあるように、10億5千万円が目的積立金という理解でいいか。

△そのとおりである。

○一般的に財務でいう利益剰余金を目的積立金という名目になっているのか。

△民間で言う利益剰余金と同等である。

○貸借対照表には資本剰余金とあるが、それが目的積立金ということか。

○国立大学法人では、中期計画期間1期6年間で終わると目的積立金を使い切るようなことがみられるが、横浜市の場合はどうか。

△目的積立金についてだが、赤字の場合は目的積立金から補てんをしている経緯がある。今

	<p>回のように剰余金として出た場合、横浜市長の承認を得て環境整備費用等の際の財源として大事に使っていききたい。</p> <p>※議題5について<資料12> 特に意見なし</p> <p>※議題6について<資料13> 特に意見なし</p> <p>△次回のスケジュール等、連絡事項の説明。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>〔配付資料〕</p> <p>資料1 第79回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）</p> <p>資料2 平成30年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告書</p> <p>資料3 平成30年度決算について</p> <p>資料4 平成30年度決算概要報告</p> <p>資料5 平成30事業年度 財務諸表</p> <p>資料6 平成30事業年度 決算報告書</p> <p>資料7 平成30事業年度 事業報告書</p> <p>資料8 独立監査人の監査報告書</p> <p>資料9 平成30年度 決算監査報告書</p> <p>資料10 平成30年度決算における法人利益処分</p> <p>資料11 評価記入用紙</p> <p>資料12 中期目標変更案</p> <p>資料13 附属2病院関連資料</p> <p>〔参 考〕 公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>